

関西医科大学 広報



昼と夜のタワー棟完成予想図（2021年9月竣工予定）

枚方学舎に本学の 新しいシンボルが誕生します

Vol.49

CONTENTS

トピックス：タワー棟新築工事起工式 P.1

大学：令和元年度医学部卒業式 P.9

大学：研究最前線 P.13

大学：KMUバイオバンクセンター設立 P.17

病院：難病センター市民公開講座開催 P.18

附属看護専門学校：卒業式 P.20

「関西医科大学タワー棟新築工事起工式」 挙行

3月16日(月)10時から、枚方キャンパスのタワー棟建設予定地において「関西医科大学タワー棟新築工事起工式」が挙行されました。山下敏夫理事長、友田幸一学長をはじめ、近隣自治会長などの地元関係者、さらに設計と施工担当の前田建設工業株式会社諏訪俊雅常務執行役員関西支店長他工事関係者など27名が列席。厳粛な雰囲気の中神官の祝詞奏上に続いて、山下理事長ほか代表者による地鎮之儀が行われ、工事の無事を祈りました。

タワー棟は遠方から入院患者さんのお見舞いにこられた家族のための宿泊施設機能や、大学の国際交流センター機能、留学生が快適な研究・勉強生活を送るためのラウンジスペース・共同キッチンを持った宿舎を備え、2021年9月の竣工に向けて工事を進めます。



鋤入れをする山下理事長

【建築概要】

- 建築面積 / 479.66㎡
- 延床面積 / 5,229.70㎡
- 構造 / 鉄筋コンクリート・鉄骨造 12階建
- 建物高さ / 115.95m
- 完成予定 / 2021年9月

オール女性医師キャリアセンター設置

オール女性医師キャリアセンターが4月1日(水)に設置されました。これまで本学では、卒後臨床研修センターに女性医師支援部門を設置し、女性医師の安定就業等の促進や職場復帰支援等に取り組んできましたが、近年の女性医師比率の高まりや、女性医師に求められる役割の広がりを受け、全ての女性医師が安心してキャリアを継続できる環境を整備するために一層の取り組みの強化が必要であると考え、新たにセンターを立ち上げることになりました。

センターでは、①職場環境の充実、②復職支援、③キャリアアップ支援、④相談窓口を核として取り組めます。女性医師の声を積極的に取り入れ、働きやすい環境を構築するため、制度や施設設備の改善に取り組んでまいります。また、同日には特設サイトを開設いたしました。コンテンツは順次更新します。

また、センター開設を記念し、センターの活動や本学の福利厚生などを紹介するキックオフ講演会(仮称)の開催も検討していきます。



オール女性医師キャリアセンター
特設サイト

2020年度入学式中止についてのお知らせ

新型コロナウイルス感染症の拡散防止、新入生及び保護者の安全を確保する観点から、令和2年度医学部・看護学部・大学院医学研究科・大学院看護学研究科入学式は中止させていただくこととしました。式の挙行を心待ちにしてこられた方々には大変恐れ入りますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。なお、友田幸一学長のメッセージを本学ウェブサイト上に公開しております。ぜひ、ご覧ください。

香里病院病院長就任および講座主任教授退任にあたって

香里病院病院長／内科学第三講座前教授 岡崎 和一



2020年3月31日付で内科学第三講座教授を退任し、4月1日付で香里病院病院長に就任しました。

内科学第三講座は鮫島美子教授による開講以来、消化器領域に特化しており、2003年の着任後もこの路線を継続しました。中でも肝、胆、膵領域における診療と研究は

国内外で高く評価されています。

在任中は消化器疾患における「炎症と発癌」をテーマに臨床と研究を推進しました。前者では消化器系難病、後者では炎症関連の癌に、特に注力してきました。

自己免疫性膵炎から始まった研究はその後わが国から発信された新規疾患「IgG4関連疾患」として概念が確立され、2015年に厚労省指定難病になりました。教室は、すべての消化器系厚労省難病研究班に属し、消化器難病施設としても高い評価を得ています。また、念願であった難病センターも2019年末に附属病院に開設されました。

教室運営以外では、附属看護専門学校長、臨床研究支援センター立ち上げをはじめ、医療・看護・薬剤担当理事として、経験をさせていただきました。以前勤務の高知医大、京都大学、本学着任後も3年目で枚方病院(現附属病院)開院を迎え、消化器内科の立ち上げの連続し

た人生でした。本学での日本消化器病学会等の4つの国内学会の学術集会主催、アジア太平洋消化器病学会、日米合同膵臓学会や自己免疫性膵炎国際シンポジウム、IgG4関連疾患国際シンポジウムの主催、IgG4関連疾患等を対象とした3つの厚労省研究班の研究代表者も担当しました。2019年には本学が世界大学ランキングで関西地区第3位となり、「世界の膵臓学・IgG4関連疾患の研究者は関西医大を知っている」に少しは貢献できたと思自負をしています。自分には過ぎた人生を歩ませていただき、関西医科大学と教室員のお陰と唯々感謝あるのみです。関西医科大学の益々の発展を祈っており、引き続き理事および香里病院病院長として、貢献できればと思っています。長い間どうもありがとうございました。

略歴

1978年 3月	京都大学医学部卒業
1986年11月	医学博士(京都大学)
1988年 4月	ニューヨーク医科大学客員研究員(消化器病研究所)
1989年 4月	州立ニュージャージー医科歯科大学客員研究員
1995年 5月	高知医科大学(現高知大学医学部)助教授(第一内科)
1996年11月	京都大学医学研究科助教授(光学医療診療部・消化器内科)
2003年 4月	関西医科大学内科学第三講座主任教授
2010年 4月	関西医科大学附属病院副病院長(兼任)
2016年 4月	関西医科大学常任理事・評議員
2016年 8月	日本膵臓学会理事長
2020年 4月	関西医科大学香里病院病院長

くずは病院病院長に就任して

くずは病院病院長 高山 康夫



2020年4月1日付で関西医科大学くずは病院病院長を拝命しました。くずは病院は、2018年1月1日に柏友会楠葉病院から、新しく関西医科大学くずは病院となりました。一般病棟、地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟を有するケアミックス型の病院です。関西医科大学に経営移譲後の2年間、今村洋二前病院長(現名誉院長)を中心として心の通った医療と介護を提供してこられました。私もこの基本方針を継承し、これまで以上に関西医科大学附属3病院との連携を深めていきたいと思っています。

私は2010年7月の開院以来8年間、関西医科大学香里病院病院長を務めました。香里病院では地域の医師会の先生や同窓会の先生に大変お世話になりました。お陰さまで香里病院は地域に根差した病院として多くの外来患者を集めています。この数年は、地域の在宅療養支援を目的として、訪問看護ステーションから始めて、ケアプランセンター及びデイケアセンターを設立いたしました。これらの事業も地域の方々にご理解していただき、

急性期病院を退院後の療養生活の支援に寄与しているものと考えます。

これらの経験を生かして、くずは病院でも積極的に地域医療への貢献を目指していきたいと思っています。療養病棟を回復期リハビリ病床及び地域包括ケア病床へ転換し、急性期の治療を終えた方の社会・在宅復帰を目指します。本年8月には電子カルテを導入し、附属3病院との更なる連携強化を図り、住み慣れた自宅での療養生活をしっかりと支援できる病院に成長を続けていきたいと願っています。今後も皆様のご理解とご指導をよろしくお願い致します。

略歴

1982年 3月	関西医科大学卒業
1982年 5月	関西医科大学附属病院研修医
1984年 6月	田附興風会北野病院内科医員
1985年 6月	関西医科大学附属病院研究医員
1990年 1月	関西医科大学内科学第二講座助手
1992年11月	米国カリフォルニア大学サンディエゴ校 Cardiology, Research Fellow
1999年 5月	関西医科大学内科学第二講座講師
2001年 6月	関西医科大学内科学第二講座助教授
2010年 6月	関西医科大学香里病院病院長
2018年 4月	関西医科大学医学部理事長特命教授
2020年 4月	関西医科大学くずは病院病院長

内科学第三講座教授に就任して

内科学第三講座主任教授 長沼 誠



2020年4月1日付で関西医科大学内科学第三講座の主任教授を拝命しました長沼誠です。内科学第三講座は鮫島美子初代教授が開設され、2代目故井上恭一教授、3代目岡崎和一教授が教室を大きく発展されてきた講座です。これまでの諸先輩方が築き上げられた伝統を引き継ぐ重責を感じており、講座をさらに発展させることにより、医学部、附属病院の運営に寄与し、さらには地域医療の発展に貢献できるべく努力していききたいと思います。

私は1992年慶應義塾大学医学部卒業後、大学、関連病院での研修を経て、消化器内科に入局しました。2003年には米国バージニア大学へ3年間留学し、腸管免疫、調節性T細胞に関する研究を行いました。帰国後は3つの大学において診療・研究・教育を行い、下部消化管疾患の内視鏡診断と治療、特に難病に指定されている潰瘍性大腸炎・クローン病の診療に取り組みながら、新規治療開発や新しいデバイスの開発に携わってきました。私の医療者としてのモットーは診療における問題点を解決するような研究に取り組み、その成果を診療にフィードバックすることにあります。今後もより良い臨床・研究を関西医科大学で行いたいと思います。

内科学第三講座は消化管・肝臓・胆道・膵臓疾患とい

った多岐にわたる分野を取り扱う科で、多くの入院・外来患者さんの診療を担当しています。私はこれら多岐にわたる部門の医局員達の取り組みを尊重しながら、科としての一体感を大切に、将来を見据えた広い視野で、次世代を担う人材を多数輩出していきたいと思っています。また他診療科・部門や附属病院の先生方とも連携を取りながら医学部・病院を発展させていきたいと考えています。さらに内科学第三講座を支えてくださる同門会の先生方との結びつきも大切にしていける所存です。私は関西出身ではないですが、地道に診療・研究・教育業務に邁進し、地域で信頼を得られる医療者になるべく精進していきます。ご指導・ご支援のほど宜しくお願いいたします。

略歴

1992年 3月	慶應義塾大学医学部卒業
1992年 5月	慶應義塾大学医学部研修医(内科)
1994年 5月	済生会宇都宮病院内科出向
1995年 6月	国立療養所東埼玉病院内科出向
1996年 6月	慶應義塾大学医学部消化器内科助手
1997年 6月	亀田総合病院消化器内科内視鏡研修
1998年 7月	慶應義塾大学医学部消化器内科助手
2003年 1月	米国バージニア大学医学部消化器内科博士研究員
2006年11月	慶應義塾大学医学部消化器内科寄附講座講師
2009年 6月	東京医科歯科大学消化管先端治療学講座講師
2012年 4月	慶應義塾大学医学部内視鏡センター専任講師
2015年 6月	慶應義塾大学医学部消化器内科専任講師
2017年 6月	慶應義塾大学医学部消化器内科准教授
2020年 4月	関西医科大学医学部内科学第三講座主任教授

神経内科学講座教授に就任して

神経内科学講座主任教授 薬師寺 祐介



この度、2020年4月1日付で関西医科大学神経内科学講座の主任教授を拝命いたしました。初代教授の日下博文先生が1997年に着任され、一から築き上げられた当講座を引き継ぎさせていただくことになりましたことは、大変な名誉であると共に、その重責に身の引き締まる思いでございます。当講座の伝統を守りつつ、令和時代の新たな神経内科診療・教育・研究を展開していきたいと思っております。

私は佐賀県生まれ、佐賀育ちで、大学も医局も佐賀大学でしたが、国内留学として2002年からの3年間、当時吹田市藤代台(現在岸部)にあった国立循環器病研究センター脳血管内科レジデントとして在阪しておりました。その後、佐賀大学に戻り、神経内科の診療・教育・研究に従事してきましたが、今回の着任で再びの来阪となり、大阪の地との運命を感じずに入られません。

私の研究における専門領域は脳卒中・認知症の両者に共通する脳微細血管障害であります。しかし、佐賀

県内唯一の大学病院における神経内科医の宿命として、日常診療においては神経内科領域全般を網羅的に行っておりました。大学運営としては、地域医療のニーズに沿うべく、脳卒中・認知症診療のセンター化にも尽力して参りました。これらの経験を元に、「医療は地域に、夢は世界に」をスローガンとして神経内科学講座を盛り上げていく所存でございます。関西医科大学の各診療科や基礎医学講座の先生方におかれましては、ご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

略歴

1996年 3月	佐賀医科大学(現佐賀大学医学部)卒業
1996年 5月	佐賀医科大学内科学講座入局
2000年 5月	佐賀医科大学内科学講座神経内科入局
2002年 5月	国立循環器病センター脳血管内科部門レジデント
2005年 4月	佐賀大学大学院医学系研究科博士課程入学
2005年 8月	佐賀大学医学部内科学講座神経内科助教
2008年 9月	佐賀大学大学院医学系研究科博士課程修了・学位取得
2012年12月	英国ロンドン大学神経研究所研究員
2014年 8月	佐賀大学医学部内科学講座神経内科講師
2015年10月	佐賀大学医学部附属病院脳血管センター副センター長
2020年 4月	関西医科大学神経内科学講座主任教授

皮膚科学講座教授に就任して

皮膚科学講座主任教授 谷崎 英昭



2020年4月1日付で関西医科大学皮膚科学講座の主任教授を拝命いたしました。初代山本俊平先生、2代目速水伸三先生、3代目大原一枝先生、4代目朝田康夫先生、5代目堀尾武先生、6代目岡本祐之先生に継いで第7代の皮膚科教授と

いうことになり、大きな責任に身が引き締まる思いであります。

私は、2002年に島根医科大学医学部医学科(現島根大学医学部)を卒業し、京都大学皮膚科に所属して以降一貫して皮膚科学の診療、研究、教育に励んでまいりました。アトピー性皮膚炎に代表される皮膚アレルギー・免疫学に興味をもって患者さんに接しながら研究に取り組むとともに、皮膚外科手技の研鑽を積んで多くの皮膚悪性腫瘍の集学的治療にも携わってまいりました。

現在、医療や研究を取り巻く環境は著しく変化しており、女性医師の多い皮膚科にとって働き方改革にもより柔軟に対応することが求められています。教室員が今ま

で以上に勉強できる環境を用意し、一流の皮膚科医を育成するというぶれない基本方針を堅持しながら、開放感と活気に満ちた教室を築いていく所存です。幸いなことに、教室の先生方は、若くやる気にあふれています。医療圏を越えてあつまる多彩な皮膚疾患についても、これまで通り、あるいはこれまでも増して学内外とのコミュニケーションを深めながら、個々の患者さんにとって最適な治療を提供出来るように精進してまいります。

今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

2002年 3月	島根医科大学(現島根大学医学部)卒業
2002年 5月	京都大学皮膚科医員
2003年 6月	島根県立中央病院皮膚科医員
2005年 4月	京都大学皮膚科医員
2006年 4月	京都大学大学院医学研究科博士課程修了・学位取得
2010年 4月	京都大学皮膚科助教
2012年 4月	長浜赤十字病院皮膚科部長
2013年 4月	京都大学皮膚科助教
2013年 9月	米国コロラド大学皮膚科Invited Faculty
2013年11月	京都大学皮膚科助教
2015年 4月	大阪医科大学皮膚科学教室講師
2020年 4月	関西医科大学皮膚科学講座主任教授

リハビリテーション学部設置準備室教授に就任して

リハビリテーション学部設置準備室教授 中野 治郎



2020年4月1日付けでリハビリテーション学部設置準備室の教授を拝命いたしまして、新しい学部の立ち上げに関わらせていただくことになりました。

2019年度時点では、理学療法士養成校は約270校、作業療法士養成校は約200校あり、ここ数十年で激増しました。理学・作業療法士の供給数はある程度満たされたとの意見もございます。その中でリハビリテーション学部を新設することは、これまでにない質の高い大学の実現に意義があり、本校がどのような理学・作業療法学教育を展開していくのが注目されています。その重責に身の引き締まる思いです。

当然ではございますが、大学として理学・作業療学分野の研究を牽引していくことも求められます。私はこれまでに理学療学分野における動物モデルを用いた基礎研究を行ってきました。筋ジストロフィー、廃用性筋萎縮、脊髄損傷、筋損傷、関節炎、関節拘縮、疼痛、がん悪液質に対する運動療法および物理療法の効果検証に

取り組んだ経験がございます。しかし、基礎研究と臨床研究の隔たりが一向に狭まらないという課題を受け、最近はこの基礎研究成果に基づく臨床研究にも自ら取り組み、トランスレーショナル研究の実現を目指しております。今後は関西医科大学附属病院および関連病院のリハビリテーション部のスタッフ方々と協力して臨床研究を進めていければ幸いです。

本学部は開校時に優秀なスタッフを迎える予定ですが、何しろゼロからのスタートでございますので皆様のお力添えが必要です。ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

略歴

1996年 3月	長崎大学医療技術短期大学部理学療法学科卒業
1996年 4月	医療法人春回会長崎北病院リハビリテーション科(理学療法士)
2005年10月	長崎大学大学院医学研究科博士課程修了
2004年 4月	長崎大学医学部保健学科理学療法学専攻助手
2007年 4月	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻助教
2010年 3月	University of British Columbia, Vancouver Coastal Health Research Institute, Muscle Biophysics Laboratory (Visiting Researcher)
2011年 4月	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻准教授
2020年 4月	関西医科大学リハビリテーション学部設置準備室教授

総合医療センター眼科理事長特命教授に就任して

総合医療センター眼科理事長特命教授 西村 哲哉



この度、2020年4月1日付けで、理事長特命教授を拝命しました。特命教授にご推挙いただきました山下理事長に心より感謝申し上げます。またこれまでご指導、ご支援いただいた関西医科大学の関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

私は、1979年に関西医大を卒業しました。生来、手先が器用であったことから眼科顕微鏡手術に興味を持ち、宇山昌延教授が主宰されていた眼科学教室に入局させていただきました。出向や留学期間以外は関西医大の滝井地区に勤務してまいりましたが、関西医大の発展と共に歩んでこられたことを光栄に思いますし、諸先輩方や大学に育てていただいたことを感謝しています。

専門領域は、網膜剥離や糖尿病網膜症、黄斑部疾患など、眼底疾患に対する硝子体手術で、2015年には網膜・硝子体センターを開設し、診療体制をさらに強固にしました。白内障や緑内障も含めると、これまでの執刀件数は3万件を越えますが、常に新しい技術を取り入れ、

最先端の医療を提供することが私に課せられた使命と考えており、多少なりとも眼科学の発展や、患者さんの視力回復に貢献できたのではないかと自負しております。

今後は、諸先輩が築いてこられた教室への信頼をさらに強固にし、関西医大および総合医療センターの発展に寄与できるよう、一層の精進を続けたいと思いますし、またその一翼を担えるスタッフの育成にも尽力したいと思います。関係各位におかれましては、今後も引き続き、ご指導、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

略歴

1979年 3月	関西医科大学卒業
1980年 4月	倉敷中央病院眼科医員
1982年 4月	関西医科大学眼科助手
1984年 4月	天理よろず相談所病院眼科医員
1986年 4月	関西医科大学眼科講師
1986年 6月	米国南カリフォルニア大学ドヘニー眼研究所留学
1995年 4月	関西医科大学眼科助教授
2004年 4月	関西医科大学眼科診療教授
2006年 1月	関西医科大学附属滝井病院眼科部長
2015年 3月	関西医科大学総合医療センター 網膜硝子体センターセンター長
2020年 4月	関西医科大学理事長特命教授

関西医科大学くずは病院院長退任にあたり

くずは病院前病院長／くずは病院顧問 今村 洋二



この度、2020年3月末日をもって、関西医科大学くずは病院院長を退任いたすことになりました。長い間、皆様には大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

なお、4月1日より、くずは病院顧問として、引き続き関西医科大学に奉職させていただくこととなりました。山下理事長はじめ皆様のご配慮に深く感謝申し上げます。

私は、病院長として、くずは病院を、急性期医療後の受け入れ病院と位置づけし、回復期から生活期までの、リハビリを中心とした医療と介護を積極的に行い、患者さんが、一日でも早く住み慣れた街、住み慣れた家に帰っていただくことを使命とした病院を目指して運営して参りました。今後は、ますます進展する高齢化社会に対

応できる地域密着型病院として、慈仁(めぐみ)を心の鏡とし、急性期医療から在宅まで、安全で安心な切れ目のない良質な医療・介護を提供できる総合医療大学病院の一員として更なる充実と発展を祈念します。

院長就任時にも述べましたが、病院がいかに優れた医療機器や設備を備えていても、高度な医療や、患者さんとの心触れ合う暖かな医療・介護を提供できるのは人の力です。そこにあるのは、人が人のために出来ることに全力を尽くす医療・介護のプロとしての誇りと細やかな心遣いです。これからも、患者、利用者、職員はじめ、皆さまから、より愛される、くずは病院作りに微力ながら力を注いで参ります。

今後とも、皆様の暖かなご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

神経内科学講座教授退任にあたって

神経内科学講座前教授 日下 博文



1997年10月から22年半、勤務させていただきました。1977年京都大学医学部卒業後、1978年7月から田附興風会医学研究所北野病院で長年臨床に携わり、その臨床力が評価されて、本学の神経内科学講座初代教授に就任させていただいたと思います。まず附属病院(現総合医療センター)で診療を開始しましたが、当時は神経内科専門医は私一人という状態でした。しかし、その後、これまでに30人の新規の教室員、そのうち専門医は今年取得予定者も含めて25名、学位取得者12名となりました。決して多くはありませんが、なんとか新規の講座、教室としての使命を果たせたかと思っています。そして、北河内に臨床神経学の萌芽を植

え付けることができたのではと考えています。

診療面では、神経筋疾患、変性疾患などの診療体制確立および地域医療機関や保健所との病診連携の活動を行ってきました。他の基幹施設に先んじてボトックス外来やHAM外来を、さらに、脳神経内科主導の脳血管内治療も他の大学病院よりもいち早く始動させました。

研究面では私のlife workである運動ニューロン病の病理学的研究を継続し、FUS, optineurinなどの病因遺伝子の研究、前頭側頭型認知症と運動ニューロン病の新しい疾患概念の確立に貢献し、特にFUS遺伝子異常がRNA代謝や核膜異常に関連することを初めて証明しました。

このように臨床、研究に打ち込めたことは、教室員はじめ関係の皆様のご理解の賜物と、心より感謝申し上げます。今後も当教室がますます繁栄することを願っております。

皮膚科学講座教授退任にあたって

皮膚科学講座前教授 岡本 祐之



1996年に堀尾武前教授のもとに助教授として入職し、2007年に教授に任用され、これまで24年間、関西医科大学でお世話になりました。教授就任時には、皮膚科定員の削減や滝井・枚方に分かれた研究・教育・臨床活動などの苦しい時期がありましたが、枚方に大学が設置されてからは充実した教室運営を行うことができました。

臨床面では外にアピールできる特化した領域を確立することを目標とし、サルコイドーシスなどの肉芽腫性疾患は、他府県の大学・市中病院からも患者紹介を受け、全国で最も専門にしている施設として評価され、皮膚科で初めて日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会を主催いたしました。また、もう一つのライフワークであり、当科が伝統的に重点としてきた日光蕁麻疹などの光線過敏症・NB-UVBやPUVA療法などの光線療法と、皮膚科で最も重要な疾患の1つである乾癬に関する生物学的

製剤治療でも、全国で1, 2を争う実績を上げることができ、本学附属病院に貢献できたのではないかと思います。これらの疾患は全身性疾患であり、その診療には他科との協力が必須であり、これまでご協力いただきました多くの先生方には厚く御礼申し上げます。

研究面でも肉芽腫とその構成細胞である単球に関する研究を進め、サルコイドーシスや乾癬の病態における免疫学的研究や臨床研究で実績を上げることができました。教授在任の後半の期間は、外国人留学生も参画することにより一層研究に活性化が起り、とくに、ベトナムからの留学生が継続して大学院に進んでおり、本学の国際交流に寄与できていると思っています。

教授退任後も、地域医療に貢献しながら、肉芽腫と光線関連疾患については新しい情報を吸収し続け、さらに発信もしていきたいと考えています。人生の最も長い期間、関西医科大学で過ごし、こうして、無事、本学の教授として任を終えることができますのは感無量であります。長い間、お世話になりありがとうございました。

関西医科大学 広報誌 vol.49

募金のお願い ～本学の教育研究活動への募金を通して社会貢献しませんか～

「施設設備整備拡充資金」の募集のご案内

平素より関西医科大学に対して、温かいご支援、ご協力を賜わりまして心より御礼申し上げます。

本学は、昭和3年の創立以来慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを「建学の精神」とし、自由・自律・自学の学風のもと、学問的探究心を備え、幅広い教養と国際的視野を持つ人間性豊かな良医を育成することを「教育の理念」として多くの医師を世に送り出し、社会に大いに貢献してまいりました。

施設設備の整備につきましては、平成28年に総合医療センター新本館完成、平成30年に回復期リハビリテーションに強いくずは病院開院、看護学部開部と、未来志向で医学・看護学の研究と広く文化の発展と公共の健康・福祉に寄与する環境を、整えてまいりました。

その結果、英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)」が実施・集計した世界大学ランキング2020において、「研究の影響力(論文の被引用数)」で高い評価を得たことにより本学は『501-600』位(去年は801-1000位)にランクインしました。国内では国公私立の総合大学を含めて14位、関西地区では3位となりました。これもひとえに皆様方のお力添えの賜物と感謝いたしております。

さらなる医療教育・研究の充実のため、令和3年4月にリハビリ学部開部、9月に国際交流センターと留学生および患者家族用宿舎の機能を備えた本学のシンボルとしてタワー棟の竣工を進めております。今後は、附属病院のリニューアルや最先端医学研究所の設立などを予定しております。

100周年そして次なる世紀に向け、本年度も別添のとおりご寄付の募集をさせていただくことになりました。この趣旨をご理解いただきまして、何卒ご支援、協力賜りますようお願い申し上げます。

【募集要項】

1. 募集対象

本学学生の保護者、同窓会員、本学関連の個人および法人その他

2. 申込方法及び払込方法

法人事務局財務部募金室に寄付金申込書をご提出(送付)いただいたうえで、本学指定の銀行口座に振込み、又は、ご持参ください。

【税制上の優遇措置】

●個人の場合

■所得税(どちらか一方の制度を選択)

(A)所得控除(「寄附金控除」)

寄付金額から2千円を差引いた金額を所得金額から控除できます。所得控除を行なった後に税率を掛けるため、所得税率が高い高所得者の方に減税効果が高くなります。※寄付金額は総所得金額等の40%が限度となります。

(B)税額控除(「公益社団法人等寄附金特別控除」)

寄付金額から2千円を引いた額の40%が税額控除の対象額となります。税率に関係なく、税額から直接控除するため、小口の寄付に減税効果が高くなります。

■住民税

お住まいの市町村の条例により個人住民税において寄付金税額控除の対象となることがあります。

詳しくはお住まいの市町村の住民税担当課にお問い合わせください。

●法人の場合

受配者指定寄付金制度を利用することで寄付金全額が損金算入されます。

所得税・住民税が合計で最大40%が減額されます

遺贈・相続財産によるご寄付も承ります

【遺贈によるご寄付】 ●遺贈によるご寄付とは

遺言によって資産の全部、または一部を本学に寄付する制度です。

- ・信託銀行が遺言執行までサポートします。ただし、信託銀行へ手数料が発生いたします。
- ・本学から三井住友信託銀行、三菱UFJ信託銀行をご紹介することができます。

【相続財産によるご寄付】 ●相続財産によるご寄付とは

故人様の遺志によって、相続財産から本学に寄付する制度です。

- ・本学にいただいたご寄付は申告することにより、その分の相続税を非課税にすることができます。
- ・相続財産によるご寄付は、現預金のみお受けしております。

令和2年1月から令和2年3月までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

本学の未来のため、学生の学びのために、皆様のご協力をお願い申し上げます。

なお、この募金の応募は任意です。

【お問い合わせ先】

関西医科大学法人事務局財務部募金室 〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL: 072-804-2146 FAX: 072-804-2344 メール: bokin@hirakata.kmu.ac.jp HP: <http://www.kmu.ac.jp/donation/index.html>



今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	3月16日	タワー棟起工式	
	4月1日	オール女性医師キャリアセンター設置	
大学	2月10日	元パプアニューギニア駐在吉田医務官学長面談	
	2月18日	「生活看護論実習I」実習報告会	
	2月20日	内科学第三講座岡崎教授最終講義	
	2月21日	Prince of Naradhiwas University (PNU) 調印式	
	2月27日	皮膚科学講座岡本教授最終講義	
	3月4日	令和元年度医学部卒業式	
	3月4日	研究医養成コース修了証授与式	
	3月24日	大学院医学研究科学学位記授与式	
	3月24日	大学院看護学研究科学学位記授与式	
	3月24日	医学会賞贈呈式	
3月24日	令和元年度留学研究賞授与式		
4月1日	附属生命医学研究所内KMUバイオバンクセンター設立		
病院	1月1日	関西医科大学医師会会長交代・医師会新役員	
附属病院	1月18日	難病センター市民公開講座	
	1月18日	市民公開講座	
	1月22日	がんセンター摂南大学出張講義	
総合医療センター	2月8日	アレルギーセンター府民公開講座	
	1月1日	骨盤機能センター開設	
	2月4日	新型コロナウイルス感染症の対応にかかる講習会	
	3月1日	スキンがん治療センター開設	
	3月1日	胆膵疾患センター開設	
附属看護専門学校	2月25日	看護専門学校卒業講演会	
	3月2日	看護専門学校卒業式	

吉田医務官学長面談

「生活看護論I」実習報告会

PNU調印式

医学会賞贈呈式

看護専門学校卒業講演会

令和元年度医学部卒業式



学位記を授与する友田学長

3月4日(水) 13時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、「第66回医学部卒業式」が執り行われました。今年は105名が卒業を迎え、学歌「のぞみ」斉唱の後、友田幸一学長から卒業生の代表に学位記が直接手渡されました。卒業生たちは友田学長の告辞を傾聴し、卒業生総代感謝の言葉では、社会人として、また医師として社会に出る覚悟と決意、そして教職員や保護者などこれまで支えてくれた方々への感謝の言葉が語られました。

卒業式 学長告辞

学長 友田 幸一

本日ここに第66回関西医科大学卒業式を挙げてまいること、この上ない喜びであります。

88回生の卒業生の皆様、保護者の皆様、本日はご卒業誠におめでとうございます。本学を代表して心からお祝い申し上げます。

また本式典にご臨席いただきましたご来賓の皆様には厚く御礼申し上げます。

ただ今回は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う政府の方針に従い、本式典を縮小して行わなくてはならなくなりましたこと、大変残念な思いであります。医育機関としての認識と立場を考えた上での決断とご理解をいただきたいと思っております。特に卒業を心待ちにしながら学業や生活の支援を続けてこられたご家族、関係の皆様には、式典への参加を自粛していただくこととなり、大変申し訳なく思っております。

さて、本日、ここに男子58名、女子47名、計105名の卒業生を送り出すことができますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。

この一年は、皆さんにとって最終の学年であり、思い出深い一年であり、また苦しい一年だったかと思っております。卒業試験など厳しい試験地獄に耐え、その苦難を乗り越えて見事に卒業されました。これまでのたゆまぬ努力と研鑽の成果を心から讃えたいと思っております。

皆さんは、「病で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちでこの医学の道を選んだことと思っております。これまで教養を深め、医師として必要な知識、技能を学び、社会人としての常識、態度、人間性を身につけてこられたことと信じます。これからは医師として医学・医療界で活躍することになりますが、人の命を預かる医師

に妥協は許されません。また今回の新型コロナウイルスのように新たな病原体との戦いは人類の永遠の課題であり、医師は常にその最前線で患者の治療に当たらねばなりません。

初心の気持ちを今一度思い出して、病める人の気持ち・感情に共感でき、常に寄り添える医師になって欲しいと思います。

さて、今後の医学・医療界は大きく様変わりすることが予想されます。超高齢社会とともに在宅・介護・福祉も強化する必要があり、高齢者の尊厳の保持と、自立生活支援を目的とした「地域包括ケアシステム」が求められます。関西医大は、すでに附属の4病院に地域医療を支える体制を整えてきました。皆さんは、高度先端・専門医療だけでなく、新たに地域医療に必要な知識を学び、経験を積むことができます。

一方、第4次産業革命とも言われる「超スマート社会(Society 5.0)」、すなわちIoTやビッグデータ、AI等をはじめとする技術革新が一層進展することが予測され、その時代を見据えた医療、研究が必須となってきます。

大学院教育では新しく修士課程を設置し、この時代を生き抜くために数理・データサイエンス、ロボット医療などの分野で必要な人材の育成に力を入れようとしています。皆さんにとって、大学病院でこそ実現可能な臨床研究や、大学院に入り学位を得ることや留学することは自身のキャリア形成において極めて意義のあることです。志を高く持って科学に根差した医療を目指して欲しいと思います。その他女性医師のための「オール女性医師キャリアセンター」も新たにスタートします。

本学は創立90周年を契機に、さまざまな事業を展開してきました。来年2021年にはリハビリテーション学部の新設、国際交流センター・留学生の居室と患者さんやご家族のための宿泊施設機能を備えたタワー棟の建設や念願であった最先端医学研究所の設置準備が始まります。これから8年先の100周年を目標にさらに進化を遂げてまいります。

私は学長就任以来、国際化、グローバル化を目標に、世界ランキングに入る大学にしたいと考えてきました。今年の世界で600位内に入り、国内の私立大学での順位は第4位、関西の国公私立大学中第3位となりました。また学生・教員比率も世界第3位を維持しています。

大学の評価は卒業生が創るものです。皆さんの活躍は本学の誇りでもあります。より質の高い医学・医療の提供、研究力の向上、グローバルリーダーの人材育成、国際認証の受審、海外医療支援活動の充実など「世界に開かれた大学」を目指しています。またその成果を“関西医大ブランド”として医療界、産業界、一般社会に、さらに世界に発信していきたいと考えています。そのためには皆さんの若いエネルギーと新しい発想が必要です。母校の更なる発展を願い、皆さんと共に頑張りたいと思います。

そして、卒業しても関西医科大学同窓生として常に母校愛を忘れないでください。

最後に、皆さんは「慈仁心鏡」の精神を忘れず、それぞれのプロフェッショナルの道を究め、そして生涯にわたって活躍されることを信じ学長告辞とします。本日は誠におめでとうございます。

2019年度研究医養成コース修了証授与式

3月4日(水) 14時から枚方学舎医学部棟4階中会議室において「2019年度研究医養成コース修了証授与式」が挙行され、この日卒業式を迎え、研究医養成コースの所定の課程を修了した医学部6年生の学生に友田幸一学長から修了証書が授与されました。

修了証授与後、友田学長から修了生に対し「コースが修了したことが終わりではなく、将来も研究を続けて、ノーベル賞を取れるような立派な研究者、医師になってください。」との激励の言葉がかけられました。



修了証を手に記念撮影に収まる修了生と友田学長(前列中央)他出席教員

2020年度入学生内訳

特別枠10名、大阪府地域枠5名、静岡県地域枠8名、そして新設の新潟県地域枠2名を含む医学部128名および、看護学部100名、また大学院医学研究科24名、大学院看護学研究科15名が本学に入学しました。

医学部入学定員増

2020・2021年度医学部地域枠・研究医枠の臨時入学定員について下記の通り増員が認められました。

認められた増員枠

- 新潟県地域枠2名(新規) ●静岡県地域枠8名(2019年度入試から3名増)
- 大阪府地域枠5名(2019年度入試と同数) ●研究医枠2名(2019年度入試と同数 ※入学後に選抜)

入学定員全体の推移

122名(2019年度)→127名(2020・2021年度)

入学した学生には、修学資金貸与制度があります。入学後は医師不足診療科・地域に関して学ぶ講義やセミナー、本学関連の医師不足地域・診療科施設での実習を行うなど、医師不足地域・診療科特別枠入学者・地域枠入学者向けに実施する特別カリキュラム^{*}を受講します。^{*}特別枠入学者・大阪府地域枠・静岡県地域枠・新潟県地域枠入学者のカリキュラム

大学関係役職者

4月1日から、大学関係役職員体制が次の通りスタートしました。

学 長	友田幸一	学生副部長	北田容章	実験動物飼育共同施設長	平野伸二
副学長	松田公志	〃	岡田英孝	アイソトープ実験施設長	谷川 昇
副学長・医学部教務部長	野村昌作	学生部副部長(看護学部)	三木明子	入試センター長	中川 淳
副学長	木梨達雄	大学院医学研究科教務部長	人見浩史	医学教育センター長	西屋克己
看護学部長	片田範子	大学院医学研究科教務副部長	藤澤順一	国際交流センター長	鈴鹿有子
看護学部教務部長	上野昌江	大学院看護学研究科教務部長	加藤令子	学 医	～5月 塩島一朗
医学部教務副部長	高橋寛二	附属図書館長	高橋寛二		6月～長沼 誠
〃	平野伸二	附属生命医学研究所長	木梨達雄		
学生部長	西山利正	総合研究施設長	清水(小林)拓也		

2020年度医学部クラスアドバイザー、看護学部クラス担任

2020年度のクラスアドバイザーおよびクラス担任が次のとおり決定しました。

【医学部】

第1学年	中川 淳	教授 (英語)
第2学年	木村 穰	教授 (健康科学)
第3学年	北田容章	教授 (解剖学)
第4学年	人見浩史	教授 (iPS・幹細胞再生医学)
第5学年	岡田英孝	教授 (産科学・婦人科学)
第6学年	齋藤貴徳	教授 (整形外科)

【看護学部】

1年次	青木早苗	准教授 (慢性疾患看護学領域)
2年次	太田祐子	准教授 (看護学教育領域)
3年次	山下裕紀	准教授 (基礎看護学領域)

2020年度医学部・看護学部教務関係日程表についてのお知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響により教務関係日程の見直しが図られていることから本号での掲載を見送ります。なお掲載につきましては本学サイト等で随時公表してまいります。

第19回 関西医科大学医学会賞

2019年11月16日(土)、枚方学舎医学部棟1階オープンラウンジにおいて、第19回関西医科大学医学会賞の応募講演が行われました。第19回関西医科大学医学会賞に選ばれた3名をご紹介します。なおこの3名には3月24日(火) 15時から枚方学舎4階中会議室で行われた医学会賞贈呈式にて、賞が授与されました。

1位 腎泌尿器外科学講座 滝澤 奈恵 助教

■演 題 「Involvement of DHH and GLII in adrenocortical autograft regeneration in rats」 (ラット副腎自家移植片再生過程におけるDHHとGLIIの関与)

この度は医学会賞を授与頂き誠にありがとうございます。副腎皮質機能不全を呈する患者さんのQOL、予後改善のために副腎皮質移植を確立出来ないだろうかと考え、大学院での研究をスタートしました。1年目は試行錯誤で思うように結果を出せませんでした。移植した副腎皮質細胞の再生過程において、副腎性腺原基で認められる遺伝子だけでなく、性腺の発生発達過程で認められる *Desert Hedgehog* の発現が上昇することを明らかにすることができました。臨床応用には程遠いものの、非常に興味深い新規知見だと考えております。松田教授、解剖学講座の山田教授(現：名誉教授)、田中准教授ほか、多数の教員・技術職員の方々に厚く御礼申し上げます。今後は、臨床で尽力するとともに、後進の先生方のために出来ることを頑張っていきたいと思っております。



2位 小児科学講座 赤川 翔平 助教

■演 題 「Effect of Delivery Mode and Nutrition on Gut Microbiota in Neonates」 (分娩様式と栄養方法が新生児の腸内細菌叢に及ぼす影響)

この度、令和最初の関西医科大学医学会賞を賜り、大変光栄に存じます。私は2014年に本学大学院に進学し、以降小児腸内細菌叢の研究に携わってきました。本研究では、新生児の腸内細菌叢と分娩様式及び栄養方法の関連を検討し、その特徴を明らかにしました。小児期は生涯の腸内細菌叢を確立する重要な時期であり、その特徴や影響を与える因子について理解することは疾患の発症メカニズムの解明や、疾患の治療および予防法の確立へ繋がるものと期待されます。この場をお借りして、ご指導いただきました小児科学講座金子一成教授および教室員の先生方、法医学講座の先生方に深謝申し上げます。



3位 外科学講座 良田 大典 先生

■演 題 「Clinicopathological and immunological features of follicular pancreatitis - a distinct disease entity characterized by Th17 activation」 (Follicular pancreatitisの臨床病理学および免疫学的特徴 - Th17活性化に特徴づけられる独立した疾患概念)

この度、名誉ある関西医科大学医学会賞を賜り、心から感謝申し上げます。
私は2015年に本学大学院に進学し、当時、導入されたばかりのnCounter analysis systemという、過去のパラフィン包埋された手術検体を使用したRNAの網羅的遺伝子発現解析が可能な機器を使用した研究を中心に、胆膵領域の研究に取り組んでまいりました。当該研究では、2012年に初めて報告された自己免疫性膵炎の亜型である、Follicular pancreatitisの病態形成にTh17が関与していることを発見することができました。また、日常臨床で使用している抗体を用いて術前診断できる可能性も示唆する結果に至りました。このような経験をさせていただいたのは、外科学講座研究室の研究員の皆様及び病理診断科のスタッフの皆様を支え励まされたからに他なりません。研究を行なったことのない私に対して、多大なご指導を賜りました、病理診断科教授葛幸治先生、病理診断科講師石田光明先生、外科学講座胆膵外科診療教授里井壯平先生、また、研究環境と研究機会をいただきました関西医科大学に、この場をお借りして、心から御礼申し上げます。



輸血・細胞療法部大西副技師長、臨床検査部高橋副技師長代理が文部科学大臣表彰を受賞

令和元年度医学教育等関係業務功労者に附属病院輸血・細胞療法部の大西修司副技師長と同臨床検査部高橋敦子副技師長代理が選ばれ、2019年11月15日(金)文部科学省にて行われた表彰式に出席。文部科学大臣表彰を受賞しました。

文部科学省では、医学・歯学の教育や研究等の補助的業務において特に顕著な功績のあった人を対象に大臣表彰を行っています。今回大西副技師長、高橋副技師長代理は長年の勤労や後進の育成に寄与した功績が認められ、表彰を受けるに至りました。



受賞者には表彰状と銀杯が贈られる(大西副技師長:左、高橋副技師長代理:右)

研究最前線

社会にもインパクトを与える大型研究。本学の研究者の活躍の一端をご紹介します。

「弾性線維」の研究

—形成のメカニズム解明と再生に向けて—

薬理学講座 中邨 智之 教授

—研究者を志したきっかけを教えてください。

元は循環器内科医として医師のキャリアをスタートしましたが、大学院へ進学し研究テーマを定めるにあたり、分泌タンパク質に興味を持ち、自分で新しい分泌タンパク質を見つけて研究しようと思ったのが研究への入り口でした。大学院在学中に、血管、皮膚や肺の伸縮機能にも関与する「弾性線維」形成に必須の分泌タンパク質を見つけ、留学先の大学、そして京都大学大学院医学研究科先端領域融合医学研究機構(以下、先端領域融合医学研究機構)等で研究を続け、今に至っています。

—研究テーマである「弾性線維」とはどのようなものでしょうか。

弾性線維とは、伸び縮みする組織(血管・皮膚・肺など)に多くあって、その伸縮性を担う細胞外マトリックスです。細胞外マトリックスとは細胞外に存在するタンパク質等の物質で、「圧力に耐える」役割や「張力に耐える」役割、そして「伸び縮みする」役割等があります。

その中の「伸び縮みする」役割をもった弾性線維の劣化・断裂は、皮膚のたるみだけでなく、心疾患予後悪化因子である動脈中膜硬化、高齢者の主要疾患である肺気腫の原因と考えられており、弾性線維の劣化予防と再生は高齢社会において極めて重要な意義をもっています。

—どのような研究をされてきたのでしょうか。

1993年に京都大学大学院へ入学した私は、ノーベル医学生理学賞を2018年に受賞された本庶佑教授(当時)の研究室で研究させていただくことになりました。当時、本庶研では分泌タンパク質を見つける新しい方法が開発されたところだったので、まずは自分で新しい分泌タンパク質を発見することを目標にしようと考えたのです。私は循環器内科医だったので、発生期の心臓に注目しました。この方法でマウス発生期の心臓から、多くの既知・未知の分泌タンパク質を単離することができました。しかしながら当時はそれらのタンパク質の機能まではわかりませんでした。

その後、1999年に留学先のカリフォルニア大学サンディエゴ校で、先の実験で単離した未知のタンパク質のうち2種を選びノックアウトマウスを作成しました。その結果、Fibulin-5(当時はDANCE: Developmental Arteries and Neural



Crest EGF-likeと命名していた)という分泌タンパク質がないマウスは、全身の弾性線維形成不全を起こすことが明らかとなりました。このマウスは肺気腫、皮膚のたるみ、動脈の硬化や蛇行といった、ヒトの老化のような表現型を示しました。このマウスを分析したところ、動脈弾性板がばらばらになっており、Fibulin-5は全身の弾性線維を作るのに必須であることがわかったのです。この仕事は首尾良くNature誌に受理されました。

これで気分良く帰国して臨床に戻ることも考えたのですが、調べるうちに、ヒトの老化にも弾性線維の分解・劣化が関係しており、しかも弾性線維は再生されないと考えられていることがわかりました。もしかしたらFibulin-5を手がかりとすれば弾性線維の再生法にたどり着けるかもしれない、と考え、帰国してからも研究を続けることにしました。

2002年に帰国し、先端領域融合医学研究機構の独立准教授として研究を続けさせてもらえることになりました。ここでは京大循環器内科の大学院生だった平井希俊先生(現・本学薬理学講座講師)の力を借りて、Fibulin-5の機能を研究しました。弾性線維はエラスチンタンパク質がマイクロフィブリルに沈着し、リシルオキシダーゼという酵素によって架橋を受けることで形成されます。Fibulin-5はエラスチンをマイクロフィブリルに沈着させるのに重要なはたらきをしていることが証明できました。

2007年に本学に赴任してからは、Fibulin-5のはたらきに別のタンパク質LTBP-4が必須であることを発見し、さらにリシルオキシダーゼの酵素活性にFibulin-4というタンパク質が必須であることを明らかにしました。これらの研究により、弾性線維形成の制御機構が明らかになりつつあります。

こうして私は、やみくもに分泌タンパク質を単離するという研究から、結果的に弾性線維形成のメカニズム解明に携わるこ

とになりました。ヒトの老化の中でも肺気腫、動脈中膜の硬化、皮膚のたるみなどの組織弾性の低下によるものは弾性線維再生による予防・治療ができる可能性があります。臨床応用に至るまでには課題がありますが、今後も研究を続けていきたいと思っています。

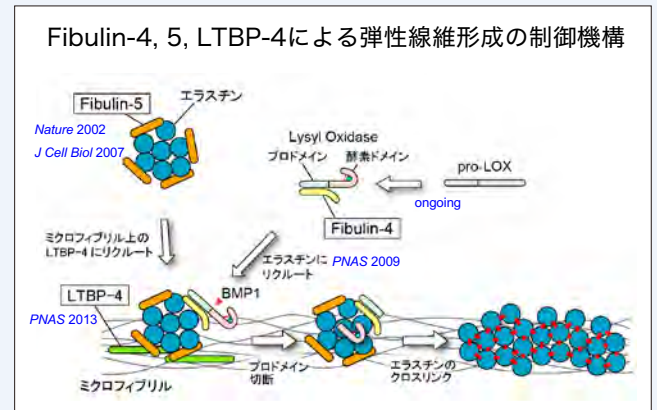
一研究への思いや後輩へのメッセージを

心がけとして「臨床応用を焦らなくてもよい」ということを伝えたいです。本庶先生のPD-1だって、最初は癌の治療に結びつくなどとは誰も思いもよらなかったわけです。まずは分子レベルでのメカニズムをしっかりと解明し、緻密なサイエンスを築き上げることが大切だと思っています。

そしてできれば自分のオリジナルを大事にしてほしい。オリジナルなテーマを深く掘り下げ、意外性のある事実を発見する、これが研究の醍醐味だと思います。

もちろん医師として自分の研究が最終的に病気の治療に結

びついたら素晴らしいと思っています。しかし、仮に自分が現役の間にそこに至らなくても、生命機能や疾患の分子メカニズムを解明することは十分な医学への貢献であると考えています。



※この記事はインタビューをもとに再構成したものです。

■主な競争的研究費採択歴

- 2016~2018 科学研究費助成事業基盤研究(B)
「弾性線維の形成と再生の分子機構」
- 2017, 2018 科学研究費助成事業基盤研究 挑戦的萌芽研究
「弾性線維再生技術の開発」
- 2019~2021 科学研究費助成事業基盤研究(B)
「生体組織の伸縮性を生み出すしくみの研究」

関西医科大学在職中(2007年4月~2020年3月)における
弾性線維に関する研究により獲得した競争的研究費総額

【総額】 2億4,145万円

- 研究費内訳 1. 文科省科研費: 6,340万円 2. JST: 4,605万円
3. 内閣府(最先端・次世代研究開発支援プログラム): 1億3,200万円

■略歴

- 1989年3月 京都大学医学部卒業
- 1997年3月 医学博士(京都大学)
- 1997年4月 日本学術振興会 特別研究員
- 1998年1月 カリフォルニア大学サンディエゴ校 博士研究員
- 2001年6月 カリフォルニア大学サンディエゴ校 Assistant Project Scientist
- 2002年10月 科学技術振興事業団 さきがけ研究員
- 2003年1月 京都大学大学院医学研究科 先端領域融合医学研究機構 助教授
- 2007年4月~ 関西医科大学医学部 薬理学講座教授

■所属学会・研究会(役職・資格等)

- ・2008年~現在 日本結合組織学会 評議員
- ・2009年~現在 日本薬理学会 評議員
- ・2011年~現在 日本結合組織学会 理事
- ・2014年~現在 日本生化学会 評議員
- 他、日本内科学会、日本循環器学会会員

2020年度入学試験結果

2020年度入学試験結果は以下の通りです。

医学部入学試験結果

	日 程	志願者	合格者	入学者
学校推薦入学試験	2019年11月24日(日)	53	10	10
特色入学試験	2019年11月24日(日)	46	14	6
一般入学試験(前期)	一次:1月25日(土)	1,796	149	76
	二次:2月 8日(土)			
センター試験利用入学試験(前期)	二次:2月15日(土)	833	25	0
センター一般併用入学試験	一次:1月25日(土)	562	44	5
	二次:2月15日(土)			
一般入学試験(後期)	一次:2月29日(土)	691	16	30
	二次:3月10日(火)			
センター試験利用入学試験(後期)	二次:3月10日(火)	49	2	1

看護学部入学試験結果

	日 程	志願者	合格者	入学者
推薦入学試験	2019年11月17日(日)	142	30	30
一般入学試験	1月26日(日)	335	106	69
センター試験利用入学試験	—	234	40	1

大学院医学研究科入学試験結果

	日 程	志願者	合格者	入学者
前期試験	2019年9月7日(土)	14	13	13
後期試験	2月1日(土)	11	11	11

大学院看護学研究科入学試験結果

	日 程	志願者		合格者		入学者	
		博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程
夏期日程	2019年9月 1日(日)	7	6	6	5	6	5
冬期日程	2019年12月7日(日)	4	4	3	2	2	2

第114回医師国家試験結果

3月16日(月)第114回医師国家試験の結果が発表されました。本学の新卒受験者105名のうち100名が合格し、合格率は95.2%、新卒および既卒を合わせた本学の受験者116名のうち110名が合格し、合格率は94.8%でした。

今後も学生全員の合格に向け、サポート体制を強化する予定です。

令和2年3月度大学院医学研究科学位記授与式挙行

3月24日(火)15時30分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、友田幸一学長をはじめ木梨達雄副学長(研究担当)、藤澤順一大学院医学研究科教務部長や指導教員らが列席し、「令和2年3月度学位記授与式」が挙行され、課程博士25名、論文博士6名に、友田学長から博士(医学)学位記が授与されました。その後の学長告辞では、学位取得者の努力を労い、「これまでの努力を今後の医師人生に生かしていただき、さらなる活躍を期待します」との、激励の言葉が贈られました。



博士(医学)の学位記を手に写真に納まる修了生ら

令和元年度大学院看護学研究科学位記授与式挙行

3月24日(火) 13時から枚方学舎看護学部棟2階第一講義室において、友田幸一学長、片田範子大学院看護学研究科長、関西医科大学附属看護学校同窓会安田照美会長らが列席し、「令和元年度大学院看護学研究科学位記授与式」が挙行され、博士前期課程の修了生9名に、友田学長から学位記が授与されました。その後の学長告辞では、学位取得者の努力を労われ、片田研究科長の祝辞では、一期生として学んできた修了生の努力をたたえ励ます言葉が贈られました。



友田学長から学位記を受け取る修了生

内科学第三講座岡崎教授最終講義

2月20日(木) 15時40分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、医学部内科学第三講座岡崎和一教授の最終講義が開講され、友田幸一学長をはじめ4学年学生、講座の教職員など約150名が参加しました。冒頭山下敏夫理事長が挨拶に立ち、岡崎教授のこれまでの労をねぎらい、今後の活躍を祈りました。

続いて登壇した岡崎教授は『日本から世界に発信した自己免疫性膵炎とIgG4関連疾患』と題して講演。「自己免疫性膵炎」の疾患概念の提唱や自己免疫性膵炎における高IgG4血症報告がわが国の医師によってなされ、研究が大きく進展したこと、また自身の所属する研究班により「IgG4関連疾患」の統一疾患名・概念および包括診断基準が提唱されたことなどを解説しました。また、学生に向けて「関西医科大学で医学を学ぶことを誇りにして、オンリーワンの医学者・医師人生を送ってください

い」と述べました。

最後に関係者から花束が贈呈され、記念撮影の後最終講義は閉講しました。



最終講義を終えて記念写真におさまる岡崎教授(最前列左から4番目)と参加者

皮膚科学講座岡本教授最終講義

2月27日(木) 12時50分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、医学部皮膚科学講座岡本祐之教授の最終講義が開講され、友田幸一学長をはじめ4学年学生、同講座の教職員など約150名が参加しました。冒頭友田学長が挨拶に立ち、岡本教授の来歴を紹介した後「定年とはなるが今後も同門として後進の指導に当たってほしい」と今後の活躍を祈りました。

続いて登壇した岡本教授は「サルコイドーシス・肉芽腫こううん流水」と題して講演。特定疾患(難病)、サルコイドーシスを専門とすることになったきっかけやその皮膚病変の臨床、組織所見など、長年に亘る教育・研究活動を振り返りました。また、学生に向けて「自身もたくさんの人々との出会いがあって“幸運”だった。いろいろな人との出会いを大事にしたいドクターになってほしい」と述べました。

最後に関係者から花束が贈呈され、記念撮影の後最終講義は閉講しました。



最終講義を終えて記念写真におさまる岡本教授(最前列左から4番目)と参加者

令和元年度留学研究賞授与式

3月24日(火) 14時30分から枚方学舎医学部棟4階中会議室において「令和元年度関西医科大学留学研究賞授与式」が行われました。この賞は、本学の留学生が本学滞在中に執筆した学位論文に対して与えられるもの。令和元年度は、Dambajamts Enkh-Undraaさん(衛生・公衆衛生学講座)、Dan Van Buiさん(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)、Ly Thi My Nhungさん(皮膚科学講座)、Le Minh Tien(形成外科学講座)、Sharon Claudia Notodihardjo(形成外科学講座)の5名が受賞し、友田幸一学長から賞状と記念品が授与されました。



賞状を手に学長らと写真に納まる受賞者(後列)

KMUバイオバンクセンターを設立

4月1日(水)付で、本学は附属生命医学研究所内に「KMUBioバンクセンター」を設立し、初代センター長に伊藤量基准教授(内科学第一講座)が就任しました。このセンターは、患者さんから提供された血液や汗、尿、毛髪、細胞組織などのサンプルを保管する“倉庫”と、そのサンプルに関連する診療情報(問診情報、診療記録、検査結果)などを保管する“データベース”で構成された組織で、友田幸一学長が主導して実現に至ったものです。

これにより本学の教職員は、一定の条件を満たせば煩雑な手続きを取らなくてもバンク内のサンプルを研究に用いることができ、研究活動の生産性が向上するだけでなく、様々な角度から研究を進めることが可能になります。例えば、同じ抗がん剤でも効果を発揮する患者さんとそうでない患者さんがいることはよく知られています

が、それがなぜなのか、細胞や遺伝子レベルで解析することが容易になります。今回のバイオバンクセンター設立から新たな治療法や新薬開発へつなげ、関西医大発の画期的な成果を挙げるのが期待されています。



KMUバイオバンクセンター特設ページイメージ(現在構築中)

病院

関西医科大学医師会会長交代

関西医科大学医師会会長 高山 康夫



この度、2020年1月から木下利彦教授の後任として関西医科大学医師会会長を拝命しました高山康夫です。関西医科大学医師会は附属4病院に勤務する医師が主な構成員で、現在の会員数は449名です。

大学附属病院の在院日数はどんどん短くなってきており、急性期病院退院後の医療の継続はこれからの重要な課題です。関西医科大学医師会でも地域の医師会の先生方との連携を強化し、北河内を中心とした地域の在宅医療を支援していきたいと思っています。

また、今後は医師の働き方改革や女性医師支援など、医師がお互いに協力し、連携を深めなければ解決できない課題が山積みです。微力ながら、医師会員の方々の医療活動支援に力を尽くしていきたいと考えています。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

■ 関西医科大学医師会新役員

1月1日から、関西医科大学医師会新役員が次の通り決定しました。任期は2021年12月31日までになります。(府医代議員の任期は2020年5月1日~2022年4月30日)

会長	高山 康夫								
副会長	岡田 英孝	齋藤 貴徳							
理事	岡田 英孝	金子 一成	木下 利彦	欽方 安行	齋藤 貴徳	澤田 敏	杉浦 哲朗		
	高橋 寛二	高山 康夫	友田 幸一	西山 利正	野村 昌作	松田 公志			
監事	谷川 昇	室田 卓之							
府医代議員	岡田 英孝	木下 利彦	齋藤 貴徳	高橋 寛二	高山 康夫	西山 利正	野村 昌作		
府医予備代議員	岩坂 潤二	岩瀬 正顕	尾崎 吉郎	金田 浩由紀	菅 俊光	宮崎 浩彰	室田 卓之		

附属病院 摂南大学で本学医師が出張講義

1月22日(水) 13時20分から、学校法人常翔学園摂南大学枚方キャンパス3号館メディックスホールにおいて本学附属病院がんセンター所属の医師による「出張講義」が開講され、摂南大学薬学部4年生の学生ら175名が参加しました。これは附属病院が、これまで蓄積した知見を社会に還元するというがん診療連携拠点病院としての責務に応え、若い人たちにがんについて知ってもらう機会とするため、本学と連携協定を締結している常翔学園と共同で実施されたものです。

この日はまず附属病院放射線治療科中村聡明准教授が「がんについて学ぶ～予防・最新治療・就労支援等～」を、続いて同院産科・婦人科岡田英孝教授が「AYA世

代のがんと妊よう性温存療法」を、それぞれ医学的な最新の知見に基づいて講義しました。聴講した学生たちは病院での実習を間近に控えた時期とあって熱心に耳を傾け、質疑応答でも活発なやり取りが生まれました。



摂南大薬学部生を前に講義する岡田教授(中央)

附属病院 難病センター市民公開講座開催

1月18日(土) 12時30分から、附属病院13階講堂において附属病院難病センター市民公開講座が開催され、枚方市民ら97名が参加しました。友田幸一学長が開会の挨拶を述べた後、数ある難病疾患の中から4疾患を取り上げ、消化器肝臓内科福井寿朗病院准教授が「潰瘍性大腸炎・クローン病」を、脳神経内科中村正孝講師が「パーキンソン病の診断と治療」を、腎臓内科塚口裕康診療科長が「多発性のう胞腎の診断と治療」をそれぞれ講演。附属病院地域医療連携部谷川昇部長の挨拶で閉会しました。

講演では各難病疾患の特徴や診療に関する解説や、難病と診断された際の医療費助成制度について説明が行われ、参加者は熱心に聞き入っていました。講座後には「今

後他の疾患についても講演を行ってほしい」等の感想が寄せられ、市民からの難病に関する関心の高まりが感じられました。



講演を行う福井病院准教授(中央)

附属病院 市民公開講座開催

1月18日(土) 14時から、附属病院13階講堂において市民公開講座が開催され、枚方市民ら120名が参加しました。松田公志副病院長が開会の挨拶を述べた後、外科関本貢嗣教授が「大腸がんの予防と治療—知っておくべき最新治療—」を、呼吸器・感染症内科宮下修行診療教授が「肺炎は老人の友—誤嚥や認知症を防ぐ秘策とは?—」をそれぞれ講演。

大腸がんについては、日頃の生活で何に気をつければよいのかなど、実生活に繋がる内容を含め、予防から治療まで横断的に解説されました。

また、肺炎については新型コロナウイルス感染症^{*}や、予防としての肺炎ワクチン接種など、興味関心の高い内

容が取り上げられました。質疑応答では参加者からの質問が多くあり、閉会後まで途切れないほどでした。

^{*}2月11日世界保健機関(WHO)により新型コロナウイルスによる病気の正式名称は「COVID-19」と決定



参加者の質問に答える宮下診療教授

附属病院 アレルギーセンター府民公開講座

2月8日(土) 14時30分から、枚方市立総合福祉会館ラポールひらかた大研修室において「関西医科大学附属病院アレルギーセンター府民公開講座」が開催され、市民ら79名が参加しました。この日は「これだけは知っておきたい、アレルギーに関する知識」をテーマに、子ども・呼吸器・皮膚・耳・鼻、そしてハウスダストに関して5人の講師が登壇しました。

まず総合医療センター呼吸器腫瘍アレルギー内科石浦嘉久診療教授が「よくわかる！ぜんそくの話」を講演。続いて大阪府済生会中津病院小児科平口雪子副部長が「食物アレルギーってどんな病気？」を、附属病院皮膚科岸本泉助教が「皮膚のアレルギーで困っていませんか」を、香里病院耳鼻咽喉科濱田聡子病院講師が「ここまで

進んだアレルギー性鼻炎の最新治療」を、それぞれ講演しました。また、外部講師による「始めてみませんか？効果が期待できるハウスダスト対策」も開講され、講演終了後は掃除機やモップのかけ方実演コーナー、登壇した医師との相談コーナーなどが設けられました。



公開講座で公演する石浦診療教授(中央)

附属病院 痛みセンター開設

2月1日付で、慢性疼痛治療において、整形外科、心療内科、リハビリテーション科、健康科学科、麻酔科等の複数診療科が連携してより効率的に質の高い医療を提供するために開設しました。

総合医療センター 骨盤機能センター・スキンがん治療センター・胆膵疾患センター開設

骨盤機能センター (1月1日付開設)：近年、排便や排尿に関する機能性疾患が問題となっており、高齢化のみでなく、直腸や前立腺の手術を受けた患者さんが排便障害や排尿障害のために生活の質を大きく損なうことが知られています。本センターは、骨盤の中の臓器である直腸、膀胱、子宮や骨盤の底にある筋肉群、尿道や肛門の括約筋の機能障害で引き起こされる疾患を総合的に診療する部門として開設しました。

スキンがん治療センター (3月1日付開設)：皮膚がん、皮下悪性腫瘍も改善が見込めるようになってきている一方、高度専門化が進む中で治療をスムーズに行えるよう、形成外科、皮膚科、放射線科、病理診断科がチームになり皮膚がん、皮下悪性腫瘍を総合的に治療する部門です。

胆膵疾患センター (3月1日付開設)：いまだ克服されていない胆膵悪性腫瘍に対して、診療科の枠を超えて肝胆膵外科、消化器肝臓内科、病理診断科、放射線科、関連各科が連携し、胆膵悪性腫瘍に対して高度で先進的な医療を提供する部門です。

総合医療センター 新型コロナウイルス感染症の対応にかかる講習会開催

2月4日(火) 17時15分から総合医療センター南館2階臨床講堂において「新型コロナウイルス感染症の対応にかかる講習会」が開催され、医師、看護師、事務職他123名が参加しました。これは、新型コロナウイルス感染症による感染の拡大が続く中、適切な対応を総合医療センター職員内で共有することを目的として開催されたもの。

総合医療センター海外渡航者医療センター西山利正センター長が座長を務め講習会が開始。同センター三島伸介副センター長が講師を務め、2002年から2003年にかけてのSARS(重症急性呼吸器症候群)流行時に中国政府衛生部とWHO(世界保健機関)の合同調査団団員として

現地で調査した際の経験にも触れながら、新型コロナウイルス感染症の現状、疑い患者が受診・搬送された際の対応、標準予防策などについて講演しました。



講演後、参加者からの質問に答える三島副センター長

令和元年度附属看護専門学校卒業式



笑顔で集合写真に納まる卒業生

3月2日(月) 10時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、「令和元年度附属看護専門学校卒業式」が執り行われました。山下敏夫理事長や友田幸一学長、安田照美統括看護部長らが臨席するなか、74名の卒業生が、楠本健司学校長から医療専門課程専門士の称号を授けられました。

学校長式辞

学校長 楠本 健司

本日ここに無事卒業の日を迎えられた令和元年度38期 卒業生74名(女子70名、男子4名)の皆さん！卒業おめでとうございます。

本日の卒業式は、皆さんもご存知のように新型コロナウイルスの感染が広がっている、この状況の中、理事長先生はじめ大学や関係のみなさまのご理解をいただき、看護専門学校の教職員が卒業生たちを思い、皆さんの感染防御と皆さんと出席者が感染拡大の媒介者にならない最大限の配慮した本日の卒業式の開催に至っています。例年の卒業式とは大きく異なり、ご家族・保護者には御出席をご遠慮いただき、在学生も不在という特別な卒業式ですが、皆さんの卒業式として開催されたことは、みなさん自身が医療人としての理解をするとともに、大学や関係の皆さまの暖かい支援の心をありがたく感謝したいと思います。

さて、あらためまして関西医科大学附属看護専門学校の教職員一同、皆さんのご卒業を心よりお祝いいたします。そして、これまで皆さんを支えてこられたご家族・

保護者の皆様に心よりお慶びを申し上げたいと思います。また卒業生を、主に実習面で導いてくださった実習施設の皆様、並びにご多用の中、本日このような状況の中ご臨席賜りましたご来賓の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学ですが、その附属看護専門学校である本校も、昭和7年(1932年)に附属看護婦養成所として開設され、今年で88周年を迎えました。これまでの本校の卒業生の総数は、みなさんを含めて5,569名で、そのうち4,681名という多くの正看護師を世に送り出してきた大変歴史ある看護専門学校です。さて、看護師としてのスタートを前に学校長として一言お話をさせていただきます。

卒業生の皆さんは本校に入学以来、良き看護師となるべく、日々勉学に励み、看護に必要な知識・技術の習得、ならびにコミュニケーション能力の向上、更には患者さんに対するいたわりのこころを育んでこられました。一

方、学生生活では球技大会、学校祭など多くのイベントを皆さんが企画し、私も競技に参加し大いに楽しむことができました。また、実習や戴帽式、キャンドルサービス等の行事も体験しましたが、なかでも戴帽式ではナイチンゲール像から戴いたキャンドルのともしびは、皆さんが病院内をキャンドルサービスで持って廻るともしびとなり、患者さんたちの笑顔や拍手になりました。これはまさに「看護の心」が伝わったものと言えます。



卒業生74名の内、70名が本学附属の施設に就職が内定し、2名が助産師学校に進学します。もうすぐ看護師生活がスタートしますが、学生時代とは異なり、そこには多くの困難に直面することと思います。現代の医学や医療でも、改善に向かわない患者さんを看護するときのストレスやジレンマ、また医学や看護学だけでは克服できない社会的障壁など、時に厳しい現実が待っています。そのような時に皆さんは、患者さんやその置かれた状況を理解し、時には共感し、協調する姿勢は極めて大切です。そして、患者さんとも先輩や同僚、後輩ともより良い人間関係を築いてください。これらは必ずやみなさん自らを人として成長させてくれます。

本日、卒業という節目に当たり、「看護の魂」について皆さんとその心構えを考えたいと思います。本校での学校生活の間に出会った先生や実習での患者さん、様々な出来事のおかげで、皆さんは今後の臨床現場で、一層心の目が開かれ、患者さんへの共感の幅が広がり、自らの人格が形成されることと思います。遠からず皆さんの

ち一人一人が大変忙しく、患者さんに必要とされ、必ずやこれを幸せと感じる人生が待っています。「忙しく、必要とされる」、皆さんにとってこれこそ看護をもって患者さんを支え、人の役に立つことであり、これに勝る幸せはありません。

皆さん！心身ともに健康で、「看護の心」を持ち、多くの経験から学びを重ね、この「看護の魂」を感じる看護師になられることを心より願っています。

最後に二つのことを伝えておきたいと思います。1つは、今回の卒業式は、ご家族・保護者の皆様には出席をご遠慮いただきました。皆さんは、3年間支えてもらったご家族に本日帰られたら卒業証書を見せて、ぜひ「無事卒業できた。ありがとう。」と感謝の言葉を伝えてください。本日の卒業式の様子はビデオなど、何らかの形でご家族に見ていただけるように計画しています。2つめは、皆さんは1ヶ月もない先に看護師として入職する医療人です。自ら医療人として、コロナウイルスに感染しないよう最新の注意をし、また感染の拡大の媒介者にならないように日々の生活や行動に自重をしてください。



結びになりますが、卒業生たちのために今日までご指導くださいました先生方、並びに関係のみなさま方に厚く御礼を申し上げますとともに、本日ご出席いただきましたご来賓のみなさまと専門学校教職員と共に、卒業生全員の看護師としての今後の成長と活躍を期待させていただきます、私の式辞と致します。

第109回看護師国家試験結果

3月19日(木)第109回看護師国家試験結果の発表が行われました。附属看護専門学校から74名が受験し、73名が合格、合格率98.6%となりました。なお、全国の合格率は89.2%でした。



学会主催報告

2020年1月～3月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

第34回日本血管外科学会近畿地方会

■会期 2020年2月22日 ■場所 関西医科大学枚方学舎

■テーマ 「育み伝える血管診療」

今回のテーマに添い、一般発表、研修医セッション、ランチョンセミナー、スポンサー特別講演、メディカルスタッフセッションのほかに、毎年当科で主催している人工血管縫合ハンズオンセミナーである「関西血管外科基本手技ビデオセミナー」を併施しました。近畿地区一円をメインに全国より大勢の多業種の参加者が集まり成功裡に終了しました。新型コロナウイルスにより開催も危ぶまれましたがマスク、手指消毒の準備を行い、問題なく施行できたと考えています。【学術集会長：総合医療センター血管外科 駒井 宏好 教授】



学会賞受賞等情報

2020年1月～3月の学会賞受賞者を紹介します。

最優秀演題賞(研究報告部門)

看護学部地域看護学領域 上野 昌江 教授

■テーマ 虐待予防においてかわりが難しい親との援助関係づくりにおいて用いた熟練保健師の支援技術

■授与学会 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会



ポスター賞

衛生・公衆衛生学講座 三宅 眞理 講師

■テーマ 介護老人保健施設におけるICTを用いた介護疲労の予防

■授与学会 第78回日本公衆衛生学会



ベストポスター賞

衛生・公衆衛生学講座 LAMANINGAO Pheophet 研究員

■テーマ Aedes genus mosquitos surveillance in vector control activity in rural communities in Thakhek district, Khammouane province, Lao PDR

■授与学会 13th NHRF (National Health Research Forum)



現場復帰を考える看護師のためのリカレントスクール 第3期生募集!!

実技演習や実習を通して最新の知識や技術が身につきます！
講師は、関西医科大学現役教員・看護師【4月20日～受付開始】

10月～11月開講予定(週3日、10:20～15:10)

募集対象 ▶ 看護師免許取得者で、離職中でありかつ復職を希望する者

研修内容 ▶ 回復期病床、在宅医療での復職を想定した内容

関西医科大学 卒後臨床研修センター 072-804-0101 (代表) 内線3801
E-mail sotugori@hirakata.kmu.ac.jp

受講料無料
定員15名





教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。

(主に2020年1月1日～3月31日 ※判明分のみ)

iPS・幹細胞再生医学講座 服部 文幸 研究教授	毎日新聞 朝刊 (1月16日)	大阪医科大学の元講師らが無許可で再生医療を行っていた疑いで逮捕されたことについての服部研究教授のコメントが掲載されました。
外科学講座 関本 貢嗣 教授	中四国・関西医事新報2020年1月第668号 (1月20日)	「新教授の横顔」において、腹腔鏡下手術における自身の経験や、次代を担う外科医育成にかける自らの思いを語りました。
小児科学講座 金子 一成 教授	岩手日日新聞(1月20日)・十勝毎日新聞(1月27日)	5歳を過ぎた子どもで昼間に尿が漏れる「昼間尿失禁」について原因や治療法などを解説する金子教授のコメントが掲載されました。
医学部3学年学生(掲載当時) 上月 一輝 さん	産経新聞 夕刊 (1月24日)	「大阪ハーフマラソン」を取り上げた記事において、医師を目指したきっかけや、将来アスリートを支える医師になりたいと語ったことが紹介されました。
衛生・公衆衛生学講座 三島 伸介 助教	BSテレビ東京「NIKKEIプラス10サタデー ニュースの疑問」 (1月25日)	新型コロナウイルス感染症に関して、諸外国の発表内容や対応策、SARS(重症急性呼吸器症候群)流行時との相違点、日本での対策の現状と問題などを解説しました。
精神神経科学講座 加藤 正樹 准教授	医者と医学部がわかる2020(週刊朝日ムック) (1月29日)	特集「主要診療科を網羅！診療科別お仕事図鑑」において、診療の現場や治療法、精神科医を志したきっかけ、精神科医に必要な視点などを述べた加藤准教授のコメントが掲載されました。
衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	朝日放送テレビ「おはよう朝日土曜日です」 (2月1日)	新型コロナウイルスについて総合医療センター海外渡航者医療センター長としての観点から、ウイルスの特徴や感染拡大を抑えるための注意点を西山教授が解説しました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	朝日新聞デジタル (2月1日更新)	里井診療教授らが、腹膜に転移した膵がんの新治療法の臨床試験実施のために寄せられた寄付金を活用し、臨床試験の応募を開始したことが紹介されました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	毎日放送「MBSニュース」 (2月7日)	里井診療教授らが実施した、腹膜に転移した膵がんの新治療法に関する臨床試験が、集まった寄付金をもとに開始されたことが取り上げられました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	毎日新聞 朝刊 (2月7日)	里井診療教授らが、腹膜転移した膵がんの新治療法に関する臨床試験実施のための寄付金を活用し、臨床試験の応募を開始したことが紹介されました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	NHK「ニュースほっと関西」 (2月18日)	新型コロナウイルス感染症に関連して、一般的な感染予防策や日常生活において気をつけるべきことなどを宮下診療教授が解説しました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	週刊朝日MOOK「手術数でわかるいい病院2020」 (2月25日)	里井診療教授が、肝胆膵がん手術特集の中でセカンドオピニオンの重要性や病院の選び方に関して解説しました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (3月3日)	宮下診療教授が出演し、新型コロナウイルス感染症に関する大阪での感染拡大や休校・自粛措置、台湾政府の感染対策などについて、解説しました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (3月4日)	宮下診療教授がスタジオに出演し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やスポーツへの影響、マスクの再利用、治療薬などについて、解説しました。
内科学第三講座 岡崎 和一 教授	読売新聞 夕刊 (3月4日)	連載企画「医なび」において、国の指定難病である「IgG4関連疾患」の発症原因や症状、治療法、注意すべき点を岡崎教授が解説しました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (3月5日)	宮下診療教授が出演し、新型コロナウイルス感染症の集団感染や感染状況の予測、緊急事態宣言などについて、解説しました。
法医学講座 橋谷田 真樹 准教授	日本経済新聞 朝刊 (3月11日)	犯罪捜査におけるDNA鑑定を解説した記事において「DNA鑑定を証拠にするには実証研究の積み重ねと社会的な議論が必要」との橋谷田准教授のコメントが掲載されました。
衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	朝日放送「キャスト」 (3月19日)	西山教授が出演。新型コロナウイルス感染症に関連し、休校措置やイベント自粛、感染者の振り分け方針、治療の現状などを、公衆衛生学的な見地から解説しました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (3月19日)	宮下診療教授が出演。新型コロナウイルス感染症について、イベント自粛要請の効果やクラスター感染の現状、緩和条件、今後注意すべきことなどを解説しました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (3月20日)	宮下診療教授が出演。新型コロナウイルス感染症に関する専門家会議の見解について解説、往來自粛による感染拡大防止効果などについて意見を述べました。
衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	朝日放送「キャスト」 (3月23日)	西山教授が電話コメントで出演。新型コロナウイルス感染症に関連して、大規模イベント開催の影響についての見解と、今後の感染拡大予測について説明しました。
衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	朝日放送「キャスト」 (3月26日)	西山教授がコメントを提供。新型コロナウイルス感染症について日本国内の封じ込め状況や大阪兵庫間の往來自粛要請の効果などについて説明しました。
衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	関西テレビ「報道ランナー」 (3月26日)	西山教授が出演。人類がこれまでベスト・コレラ・スペイン風邪(インフルエンザ)などの感染症に対してどのように対抗してきたのか、教訓として何を学んだのかなどを解説しました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (3月26日)	宮下診療教授が出演。新型コロナウイルス感染症陽性者の東京での急激な増加を踏まえ、その原因や対処法、今後の流行経過の推測などについてコメントしました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (3月30日)	宮下診療教授が出演。新型コロナウイルス感染症に関して、外出自粛要請や緊急事態宣言の医学的意義、医療崩壊防止に必要な施策などについてコメントしました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (3月31日)	宮下診療教授が出演。新型コロナウイルス感染症の感染拡大への医学的な対策や、緊急事態宣言発令の必要性などについてコメントしました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

世の中はコロナ一色で気持ちも塞ぎがちになりますが、そんな状況でも春は来て、桜や生き物のいぶきには今年も心なごませられます。さて、表紙には関西医科大学の新たなシンボルになるタワー棟の写真を掲載いたしました。これから工事が進み、空に向かって背を伸ばしていくことになるタワー棟のように、私たちも気持ち新たに新年度を歩んでいければと思います。(M)

関西医科大学広報 Vol.49

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)

FAX 072-804-2638

http://www.kmu.ac.jp/

E-mail: kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

2020年5月15日(金)発行